

| | | | |
|------|------------|-------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 英語(英会話を含む) | 一斉・分割 | 6時間 |

| | |
|--|--|
| 教科書 NEW CROWN 1 (三省堂) | 副読本 ウイニング 英語1 (好学出版) 英語の語順ドリル① (正進社) |
| 目標・ねらい 1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。 2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。 3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。 | |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 学習方法 (1)授業 ア 帯活動(Small Talk、速読、瞬間英作文、音読等) イ リスニングやオーラルイントロダクションによる内容把握 ウ 速読による内容把握 エ 新出語彙の発音と意味の確認 → Vocabulary Quiz オ 本文の内容理解と音読 カ 新出文法のルールを理解と活用練習 キ レッソンのトピック、新出文法を使った自己表現活動 ク Final Task, まとめテスト、ミニ確認テスト (2)復習 ア 音読、abceed イ 家庭学習プリント ウ ウイニング・語順ドリル エ ミニ確認テストや単語テスト等に向けての準備 オ ワークシートや授業ノート等の見直し、テスト直しノート 2 長期休業中の課題 (1)与えられたトピックについてまとめた英文を書く (2)夏期・冬期・春期テキスト(文法練習問題・長文読解問題) (3)キクジユクの例文暗記(春期休業期間のみ) | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|------------------------------|
| 知識・技能 | 40 | 単語テスト・小テスト・まとめテスト・Final Task |
| 思考・判断・表現 | 40 | 英会話・まとめテスト・Final Task |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 授業・学習活動への意欲・提出物・学習の振り返り |
| | | |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|--|
| 前期 | 【UNIT 1: This Is Me!】 Lesson 1 About Me (1) I am... / You are... / I play... / You like... (2) Are you...? / Do you play...? (3) I am not... / I do not play... Lesson 2 English Camp (1) I can ... / I cannot... (2) Can you...? | 【UNIT 1】 「コミュニケーションを深めるきっかけとなる自己紹介」という視点を持って自己紹介の内容を考え、クラスメートの前で発表することができる。また、発表内容について感想を伝え合ったり、簡単な質問をし合ったりすることができる。 (1) am / areを理解し、使うことができる。 (2) be動詞を正しく使うことができる。 (3) have / like / play といった一般動詞を理解し、使うことができる。 (4) 助動詞canを理解し、使うことができる。 (5) be動詞・一般動詞・助動詞canの否定文と疑問文の作り方を理解し、状況に応じて使うことができる。 |
| | 【UNIT 2: This is ○○!】 Lesson 3 Our New Friend (1) This is... / This is not... (2) Is this ...? / What is...? (3) I like him [her]. / Who is...? (4) 命令文 (5) What...? / How...? Lesson 4 My Family, My Hometown (1) Miki plays ... (2) Does Mike play ...? / Miki does not play ... | 【UNIT 2】 「つながりを生むための他己紹介」という視点をもって、他己紹介の内容を考え、クラスメートの前で発表することができる。 (1) be動詞 isの肯定文・否定文・疑問文を正しく使うことができる。 (2) 疑問詞を理解し、正しく使うことができる。 (3) 命令文の構造を理解し、状況に応じて使うことができる。 (4) What...? / How...?などの疑問詞を理解し、正しく使うことができる。 (5) 三人称単数現在形を理解し、使うことができる。 (6) 三人称単数現在形の疑問文・否定文の構造を理解し、正しく使うことができる。 |
| 後期 | Lesson 5 School Life in the U.S.A. (1) Tom is studying ... (2) Is Tom studying ...? | 異文化を紹介するテキストを読み聞きすることで、文化を構成するものには、言語・歴史的な場所や習慣・人々の営みがあることを知る。そして、それらは優劣をつけるべきものではなく、互いに尊重されるべきものであるということに思いを至らすことができる。 (1) 現在進行形を理解し、使うことができる。 |
| | 【UNIT 3: My Identity】 Lesson 6 Discover Japan (1) Amy enjoyed ... / Amy went ... (2) Did Amy enjoy ...? / Ami did not enjoy ... Lesson 7 Wheelchair Basketball (1) My father was ... / My parents were... (2) I was watching ... | 【UNIT 3】 他者のエッセイやブログを手がかりに、自分に深く影響を与えているもの(人・物・場所など)について、なぜそれが自分のアイデンティティーに影響を与えていると言えるのかをエッセイに書き、クラスメートの前で発表することができる。 (1) 一般動詞の過去形を理解し、使うことができる。 (2) さまざまな不規則動詞の変化を覚え、使うことができる。 (4) 一般動詞過去形の否定文と疑問文の作り方を理解し、状況に応じて使うことができる。 |
| | 【UNIT 4: My Promise】 Lesson 8 Green Festival (1) It will be ... / Will it be ...? / It will not be... (2) I am going to ... / Are you going to ...? | 【UNIT 4】 環境問題について、現状と問題解決のためのさまざまな活動についてリサーチする。その上で、自分にできる具体的な解決策を考え、「環境を守るためのマニフェスト」として文章にまとめることができる。 (1) 未来を表わす表現will ... / be going to ...を理解し、使うことができる。 (2) 未来を表すwillの否定文と疑問文の作り方を理解し、状況に応じて使うことができる。 (4) 未来を表すbe going toの肯定文・疑問文・否定文 |

| | | | |
|------|----|------|-------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 国語 | 一斉 | 4.4時間 |

| | |
|---|---|
| 教科書 中学国語1年(教育出版) 中学書写1(教育出版) | 副読本 よくわかる中学国文法(吉野教育図書) 書いて覚える! 例文漢字(浜島書店) 論理エンジンOS2(水王舎) |
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語を、「考える」「創造する」「振り返る」「学習する」「自己表現する」「分析する」「社会とやりとりする」ための手段として利用できるようにする。 ・さまざまな場面で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「見ること」「発表すること」に関わるスキルを身につける。 ・文学および文学以外のテキストを、批判的、かつ創造的、かつ独創的に学習し分析することを探究する。 ・いろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。 ・文学および文学以外のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。 ・多様なメディアや伝達手段を通して言語を探究する。 ・生涯にわたる読書への関心を育む。 ・さまざまな場面において、言語的で文学的な概念とスキルを応用できるようにする。 | |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>学習方法</p> <p>予習 提示されたテキストを読み、分からない語句などは意味を辞書で調べておく。事前に課題を出された場合は、確実にその課題をこなしておく。</p> <p>授業 個人作業→協働作業→個人作業の繰り返しの中で、仲間と一緒に考えながら自己の考えを深め、一つの事柄を探究していくことの楽しさ・喜びを実感できるようにする。</p> <p>復習 自分の提出・提示した課題と評価規準を見比べ、課題への取り組み方として足りなかった部分、今後必要になってくるであろう部分を認識する。評価に納得のいかない部分があった場合は、必要に応じて教員と面談等を行い、納得した上で次の課題に取り組む。</p> <p>長期休業の課題 毎年、春・夏・冬休み、いずれかにおいて作文や創作、読書感想文を一篇ずつ課題とする。 俳句や短歌作りなどをおこない、外部コンクールにも応募する。</p> <p>小テスト 漢字テスト・語彙テストなどを定期的実施する。</p> <p>書写 毛筆・硬筆併せて、年間10時間程度行う。</p> <p>※学年の状況に応じて単元が前後することがある。</p> | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|---|
| 知識・技能 | 20 | 各課題における言語使用、国文法、漢字テスト、書写 |
| 思考・判断・表現 | 60 | テキストの分析・文章読解／口頭での発表・他者の発表の聞き方／長期休暇中の課題作文・論文や作文など文書による課題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 課題の提出状況・課題への取り組み態度 |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|---|---|
| 前期 | 1 オリエンテーション 2 Unit1 影響を受けた作品から自分自身を知る 3 Unit2 論理的な読み・書きの探究 4 文章読解演習 5 漢字の学習 6 口語文法 7 論理エンジン 8 言語技術 9 書写 | 1 年間を通じての授業の方針と、ねらい・目標を理解する 2 影響を受けた作品から自分自身のアイデンティティを再確認する探究学習を行う。また、クラス・学年の仲間と相互理解を深めるための自己紹介と他者理解もここで兼ねる。その過程において探究学習において必要な基本的な事柄も学ぶ 3 時空を超えたコミュニケーションを可能にする論理について探究する 4 教科書などの説明文を用いて、探究学習で学んだことを、文章読解に活かす練習をする 5 漢字の成り立ちや部首、読み、意味などについて知り、正確に漢字を読み、書き、学ぶための基本的な知識を得る 6. 7 日本語を論理的に読み、書くための基本的な知識を体系的に学ぶ 8 物事を論理的に考え、読み、伝えるための基礎とスキルについて学ぶ 9 毛筆と硬筆を用いて、美しい文字を書く |
| 後期 | 1 Unit3 物語の構造分析 2 Unit4 古典作品を学ぶ意義を探究する 3 文章読解演習 4 漢字の学習 5 口語文法 6 論理エンジン 7 言語技術 8 書写 | 1 物語の構造分析の仕方について学び、物語を分析するための基礎を、探究学習を通じて身につける 2 現代にも様々な面で影響を与える古文・漢文作品の鑑賞・分析を通して、現代において古典作品を学び、味わうことの意義を探究する 3 教科書などの説明文を用いて、探究学習で学んだことを、文章読解に活かす練習をする 4 漢字の成り立ちや部首、読み、意味などについて知り、正確に漢字を読み、書き、学ぶための基本的な知識を得る 5. 6 日本語を論理的に読み、書くための基本的な知識を体系的に学ぶ 7 物事を論理的に読み、考え、伝えるための基礎とスキルについて学ぶ 8 毛筆と硬筆を用いて、美しい文字を書く |

| | | | |
|------|-----------|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 社会(地理・歴史) | 一斉 | 3時間 |

| | |
|---|--|
| 教科書 社会科 中学生の地理(帝国書院) 中学校社会科地図(帝国書院) 中学歴史 日本と世界(山川出版) | 副読本 最新地理資料集総合(明治図書) 学び考える歴史(浜島書店) ビジュアル公民(とうほう) |
|---|--|

| |
|---|
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること ・個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること ・環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること ・人間のコミュニティーと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること ・地域およびグローバルなコミュニティーの責任ある市民として行動すること ・探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること |
|---|

| |
|--|
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 日常の学習</p> <p>(1)ユニットごとに地理的分野と歴史的分野の学びをおこなう。</p> <p>(2)プリントを配布するため、A4ファイルを購入し、ポートフォリオとしてまとめること。</p> <p>(3)ユニットによって座学やグループワーク、個人ワークなどを組み合わせて行う。</p> <p>(4)歴史分野は、ユニット内容に合わせて問題集を解き知識定着をはかること。</p> <p>(5)学習習慣定着のため、課題提出は必ず行うこと。</p> <p>2 長期休業の学習</p> <p>(1)まとまった時間を使って調べ学習を行う。</p> <p>(2)社会的事象に積極的に目を向け、関心を高める。</p> |
|--|

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|-----------------|
| 知識・技能 | 48 | 小テスト・単元テスト・探究課題 |
| 思考・判断・表現 | 24 | 小テスト・単元テスト・探究課題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 28 | 小テスト・単元テスト・探究課題 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|---|
| 前期 | <p>ユニット1【地理分野】 ここはどこ？私はだれ？</p> <p>世界と日本の地域構成 1. 世界の姿 2. 日本の姿</p> <p>★単元テスト(6月上旬) ★ポートフォリオ</p> | <p>・世界と日本の地域構成について、国名と位置、経度と緯度、地球儀と世界地図の違い、日本の領域とその特色などを理解する。</p> <p>[B][C]</p> |
| | <p>ユニット2【歴史分野】 文明の誕生</p> <p>★ミニポートフォリオ ★探究課題</p> | <p>・古代文明誕生の条件を多様な文明を比較して理解する。</p> <p>・権力の誕生が人間社会に与えた影響を考察し、歴史から学ぶことの意義を考える。</p> <p>[A][D]</p> |
| 後期 | <p>ユニット3【歴史分野】 古代国家のあゆみ ★単元テスト(10月)</p> <p>ユニット4【地理分野】 世界の諸地域の自然環境とそこに住む人々の生活</p> <p>★探究課題(12月)</p> | <p>・古代の国家体制が整備されていく過程を通し、国家と個人の関係性を理解する。</p> <p>[A]</p> <p>・世界の諸地域について、各地域に暮らす人々の生活を、地理的環境から分析し、それぞれの州の地域的特色を理解する。</p> <p>[C]</p> |
| | <p>ユニット5【地理分野】 世界の諸地域を学ぶ</p> <p>地球規模的課題を地理・歴史・公民の社会的視座から、世界の諸地域を考察する。 (食料問題、水問題など)</p> <p>★ポスターセッション(3月)</p> | <p>・地球的規模の課題の一つをテーマに置き、世界の各州の特徴を理解するとともに、課題を多角的に考察する。</p> <p>[B][D]</p> |

| | | | |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 数学 | 一斉 | 4時間 |

| | |
|-----------------------|-------------------------|
| 教科書 新しい数学 1 (東京書籍) | 副読本 数学の学習ノート 1年(正進社) |
|-----------------------|-------------------------|

目標・ねらい
 ・負の数の概念や代数学の意義を理解し、正負の数の四則計算や文字式の基礎を培う。
 ・比例や反比例から、数量の関係を式や表、グラフなどで表現し考察する。
 ・平面図形や空間図形について学び、論理的に考察する。
 ・データの処理や統計的確率について学び、統計的な見方や考え方を培う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

○ユニットテストについて
 (1)授業内容を中心に出題する。
 (2)ユニットテスト当日に、問題集を提出すること。

○その他のテストについて
 (1)再テスト : ユニットテストの再テスト及び補習
 (2)MN テスト : 日々の授業内容を確認する小テスト
 (3)DN テスト : 学習済みの内容を自宅で振り返る宿題
 (4)TDN テスト : 学力テスト前に再確認するためのDN総まとめテスト

○日々の学習について
 (1)予習として、教科書の例題を読むと良い。ファイルを用いてプリント類を整理する。
 (2)復習として、問題集を解いて答え合わせと間違い直しをする。
 (3)入学前と長期休暇の宿題はワークやプリントが配布される。
 (4)各教室に置いてある「数学検定の完全対策問題集(日本実業出版)」を自由に活用する。
 (5)希望者に問題集「STEP演習(数研出版)」を販売する。各自のペースで取り組むこと。
 (6)各自で「振り返りノート」を準備し、学力テスト後に提出する。

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|-------------------|
| 知識・技能 | 50 | ユニットテスト・MNテスト |
| 思考・判断・表現 | 30 | レポート・学力テスト・TDNテスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 提出物・DNテスト |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 【MYP評価規準】 |
|----|---|---|
| 前期 | ユニット1 1章 正負の数 正負の数 加法と減法 乗法と除法 正負の数の利用 ユニットテスト レポート | ・負の数の意味を理解する。 ・いろいろな数量を、正負の数を用いて表す。 ・正負の数の四則計算に習熟する。 ・正負の数を利用して事象を表現する。 【A・C】 |
| | ユニット2 2章 文字と式 文字を使った式 文字式の計算 文字式の利用 ユニットテスト レポート 3章 方程式 方程式とその解き方 1次方程式の利用 ユニットテスト レポート | ・いろいろな数量を文字式で表す。 ・1次式の加減乗除に習熟する。 ・数量の等しい関係を等式で表す。 ・1元1次方程式を解く。 ・具体的な問題を、1元1次方程式を用いて解決する。 【B・D】 |
| | ユニット3 4章 比例と反比例 関数と比例・反比例 比例の性質と調べ方 反比例の性質と調べ方 比例と反比例の利用 ユニットテスト レポート | ・数量の関係を表す式を理解する。 ・身近な事象を比例・反比例で考察し、式や表またはグラフに表す。 【A・D】 |
| 後期 | ユニット4 5章 平面図形 図形の移動 基本の作図 おうぎ形 6章 空間図形 いろいろな立体 立体の見方と調べ方 立体の体積と表面積 ユニットテスト レポート | ・図形の移動や基本的な作図を学ぶ。 ・用語、記号などを理解する。 ・垂線や角の二等分線などの作図をする。 ・扇形の弧の長さや面積を求める。 ・空間図形の見取図や投影図、展開図を理解する。 ・柱体・錐体・球の表面積や体積を求める。 【A・B】 |
| | ユニット5 7章 データの分析と活用 データの整理と分析 データの活用 ことからの起こりやすさ レポート | ・資料の特徴を調べるために表やグラフに整理し、その傾向を読み取る。 ・身のまわりの問題について、資料を整理しその特徴について思考・表現する。 【C】 |

| | | | |
|------|---------|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 理科(1分野) | 一斉 | 2時間 |

| | |
|--|--|
| 教科書 未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館) | 副読本 定期テスト対策ワーク理科中1 (エデュケーショナルネットワーク) |
| ねらい ・科学とその意味するものを理解し正しく認識すること ・科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと ・疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと ・調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと ・効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること ・実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること ・生物環境と非生物環境に対して敏感になること ・学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること | |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) | |
| 1学習方法 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。 | |
| 2家庭学習 (1)学校からの課題を行う。 (2)テストに向けた学習計画を立て実行する。 (3)夏休みには、課題等を行う。 | |
| 3授業 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。 状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。 | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|-----------------------|
| 知識・技能 | 40 | テスト、実験の技能 |
| 思考・判断・表現 | 40 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 授業態度、提出物 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|---|
| 前期 | 物質 身のまわりの物質(MYP UNIT1) 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 | ・物質の性質を利用して、物質を区別する方法を理解し、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身につける。 ・気体の性質を利用して、気体を区別する方法を理解し、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。 MYP 謎の気体Xの正体を探る実験方法を考え、実際に実験を行い、謎の気体Xの正体が何であることを明らかにする。 |
| | 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 | ・水溶液の性質を利用して、物質を区別する方法を理解し、水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連づけて考える。 ・物質の状態変化を利用して、物質を区別する方法を理解し、状態変化によって物質の体積は変化すが質量は変化しないことを見いだす。 |
| | エネルギー 光・音・力による現象(MYP UNIT3) 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象 | ・光の反射や屈折の実験を行い、物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。また、凸レンズのはたらきについての実験を行い、物体の位置と像の位置および像の大きさや向き関係を見いだす。光の性質を知り、光の進み方を作図ができる。 ・音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ、音の大きさや高さは発音体の振動のしかたに関係することを、パソコンのアプリケーションなどを利用して理解する。 MYP: プロジェクターを作成する |
| | | ・物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだすとともに、力は大きさと向きによって表されることを理解する。 MYP: フックの法則は本当にいつでも成り立つのか |
| 後期 | | |

| | | | |
|------|---------|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 理科(2分野) | 一斉 | 1時間 |

| | |
|--|--|
| 教科書 未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館) | 副読本 定期テスト対策ワーク理科中1 (エデュケーショナルネットワーク) |
| ねらい ・科学とその意味するものを理解し正しく認識すること ・科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと ・疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと ・調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと ・効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること ・実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること ・生物環境と非生物環境に対して敏感になること ・学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること | |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) | |
| 1学習方法 (1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。 (2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。 (3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。 | |
| 2家庭学習 (1)学校からの課題を行う。 (2)テストに向けた学習計画を立て実行する。 (3)夏休みには、課題等を行う。 | |
| 3授業 実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。 状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。 | |

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|-----------------------|
| 知識・技能 | 40 | テストや課題、実験の技能 |
| 思考・判断・表現 | 40 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 授業態度、提出物 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|--|
| 前期 | ユニット2 生命 いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 | 1章 植物の特徴と分類 身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点と相違点にもとづいて植物が分類できることを見いだして理解する。 植物の対する興味・関心をもち、植物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える力を身に付ける。 |
| | 2章 動物の特徴と分類 | 2章 動物の特徴と分類 身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点と相違点にもとづいて動物が分類できることを見いだして理解する。 動物の対する興味・関心をもち、動物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える力を身に付ける。 |
| 後期 | | |

| | | | |
|------|---------|------|-------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 理科(2分野) | 一斉 | 後期1時間 |

| | |
|---|--|
| 教科書 未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館) | 副読本 定期テスト対策ワーク理科中1 (エデュケーショナルネットワーク) |
| <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学とその意味するものを理解し正しく認識すること 科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと 疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと 調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと 効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること 実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること 生物環境と非生物環境に対して敏感になること 学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること | |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1学習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。 復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。 実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。 <p>2家庭学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校からの課題を行う。 テストに向けた学習計画を立て実行する。 夏休みには、課題等を行う。 <p>3授業</p> <p>実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。 状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。</p> | |

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|-----------------------|
| 知識・技能 | 40 | テストや課題、実験の技能 |
| 思考・判断・表現 | 40 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 授業態度、提出物 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|---------------------------------|--|
| 前期 | ユニット4 地球 活きている地球 1章 身近な大地 | 1章 身近な大地 身近な地形などの観察を通して、大地の成り立ちなどを理解する。観察器具の基本的な扱い方を身に付ける。 |
| | 2章 ゆれる大地 | 2章 ゆれる大地 地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解し、記録の分析により地震のゆれの伝わり方の規則性を見いだす。また、地震の原因などをプレートの動きと関連づけて理解する。 |
| | 3章 火をふく大地 | 3章 火をふく大地 さまざまな火山の活動などを調べ、それらのようすはマグマの性質が深く関係していることを考察するとともに、マグマからできている火成岩の特徴を、成因と関連づけて理解する。 MYP:日本は本当に住みやすいのか。 |
| | 4章 語る大地 | 4章 語る大地 地層の重なり方や広がり方の規則性を捉え、構成する岩石や化石をもとに、地層が堆積した時代や当時の環境を推測することを通じて、地層のでき方を理解する。また、プレートと火山活動や地震などとの関連を総合的に捉え、大地からの恵みや災害について理解する。 |
| 後期 | | |

| | | | |
|------|----|------|-------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 音楽 | 一斉 | 1.3時間 |

| | |
|--|-----------------|
| 教科書 書名(出版社) 中学生の音楽 1年 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社) | 副教材 アルトリコーダー |
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 音を使って、自分を表現する喜びを味わい、豊かな人間性を養う。 演奏や鑑賞を通して、他と協力して一つのものを作り上げる喜びを体験する。 演奏を聴きあい、互いの理解を深める。 | |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の進度により課題の出る場合がある。 各種コンクール等への自主参加は自由。 ユニットに関わらず、演奏活動は随時行う。 アルトリコーダーは一斉購入予定。(既に所持している場合は不要) | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|--------------------------|
| 知識・技能 | 40 | まとめテスト・パフォーマンス・小テスト |
| 思考・判断・表現 | 40 | パフォーマンス・平常点・鑑賞 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 課題への取り組み・まとめテスト・小テスト・平常点 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|---|--|
| 前期 | ユニット1【私たちの学校】 歌唱(校歌・聖歌・若い力・他) 楽典(音符・休符・記号・リズム) パフォーマンス(歌唱) | <ul style="list-style-type: none"> 身近な曲を通して歌唱の基礎を学び、元気よく歌う。 校歌の歌詞を自分なりに解釈し、理解を深め表現につなげる。 詩や曲の雰囲気合った声で、言葉を大切に歌う。 歌うという自己表現を行うにあたり必要な、音楽の基礎的な知識を身に付ける。 他と協力して演奏する。 曲への解釈を演奏に示す。 |
| | ユニット2【音は語る】 鑑賞 音楽から情景を感じ取る まとめテスト | <ul style="list-style-type: none"> 曲の構成をとらえ、音楽と詩の関わりや変化を感じ取る。 音楽を多角的に鑑賞し、自分の言葉で表現する。 自らの考えや表現への解釈を言語化する。 弦楽器について学ぶ |
| 後期 | ユニット3【心を合わせて】 合奏 アルトリコーダー 合唱 | <ul style="list-style-type: none"> フレーズの特徴を生かした表現を工夫する。 音高に応じた美しい音色を奏でるための奏法を身に付ける。 表現に必要な技術を身に付ける 合奏、合唱を通して、他者の表現の良さや違いを理解する 練習・演奏を通し、音楽的コミュニケーションを図る 表現する楽しさを感じ、他者の表現を受け入れる。 |
| | ユニット7【音楽鑑賞～魔王～】 鑑賞 物語を歌で表現する芸術 楽典(拍子・リズム) 箏曲 まとめテスト | <ul style="list-style-type: none"> 音楽を多角的に鑑賞し、自分の言葉で表現する。 詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取る。 拍子を正確に捉え、音符や休符を正しく使用する。 箏について学ぶ 箏曲コンサートを通し、伝統楽器への理解を深める。 |

| | | | |
|------|---------|------|-------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | アート(美術) | 一斉 | 1.3時間 |

| | |
|---|-----------|
| 教科書 美術1 (光村図書) | 副読本 なし |
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく美術の活動に取り組むなかで、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育む。 対象を見つめ感じ取る力や、想像力を養い、豊かに発想し構想する能力や、色彩・形による表現の技能を意図に応じて創意工夫し表現する力を養う。 自然の造形や芸術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、芸術文化に対する関心を高めるとともに良さや美しさを味わう鑑賞の能力を育てる。 創造的な思考力を高め、自己及び他者理解を深める。 | |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業時には、制服が汚れないよう十分注意し、タブリエや、エプロン、スモックなどを着用する。 筆記用具、教科書、絵の具バック、タブレットを毎時持参する。 各種コンクールへの参加は自由。 授業進度によって、課題の変更がある。 | |
| <p>長期休業課題</p> <p>調査レポート、鑑賞シート、自作の振り返り、作品制作、資料・材料集めなどのなかから、学習内容に合わせて休み前の授業内にて指示。</p> | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|--------------------|
| 知識・技能 | 40 | 提出物(記述・作品)・テスト |
| 思考・判断・表現 | 40 | 提出物(記述・作品)・テスト・鑑賞文 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 提出物(記述・作品) |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|---|---|
| 前期 | <p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前のデザイン(教科書 P. 44-47) 切り絵・水彩(教科書 P. 58/62) ユニット1「きもちコレクション」 ・画材研究 ・水彩(モダンテクニック) ・横顔の切り絵 ・抽象表現 <p>鑑賞・デッサン</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット2「美の発見！」 ・絵画鑑賞 ・鉛筆デッサン(モチーフ:手) ・作品解説 ・相互鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色の工夫をし、文字のデザインをする。 ・形や色が鑑賞者にどのような影響を与えるか考える。 ・実践的にアイデアの探究をするなかで、画材特性や塗りの技法を理解し、それらの知識を活用する。 ・学習内容を効果的に活かし、自身の感情や自分らしさを表現する。 ・制作した作品の芸術的意図を提示する。 ・芸術作品に見られる表現(塗りの技法)に着目し、それまでの学習との関係を特定した振り返りをする。 ・自己理解、他者理解を深める。 ・自分の作品や自身の成長に対し、適切な評価を示す。 ・作者の意図を読み解き、創造的な表現の工夫や効果的な視覚表現を学ぶ。 ・作品が表現していることについて自分の観方や考えを持ち、それらを他者と共有する。 ・身近なものを異なる視点で分析し、自身の表現に転移する。 ・対象を深く見つめる観察力と描写力を高めるとともに、画材の特性を学び、主題に沿った表現法を考える。 ・自分の作品や自身の成長に対し、自分の言葉を用いて適切な評価する。 ・多様な表現への理解を深める。 |
| | <p>鑑賞・デッサン</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット2「美の発見！」 ・絵画鑑賞 ・鉛筆デッサン(モチーフ:手) ・作品解説 ・相互鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な時代の美術作品から作者の創造的工夫や心情を感じ取り、自分の見方や考えを深める。 ・作品のよさや美しさについて自分の考えを持ち、それらを他者と共有する。 ・身近なものを異なる視点で分析し、自身の表現に転移する。 ・対象を深く見つめる観察力と描写力を高めるとともに、画材の特性を学び、主題に沿った表現法を考える。 ・自分の作品や自身の成長に対し、自分の言葉を用いて適切な評価する。 ・現代における美のあり方や、自・他にとつての美の価値観に意識を向け、多角的な芸術文化への理解を深める。 |
| 後期 | <p>版画・デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット3「未成年の主張」 ・色の学習 ・マークデザイン ・版技法 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのもの(ロゴデザイン)に目を向け、どのような表現の工夫や効果があるか調査し、分析する。 ・版画技法・色の効果についての学習内容を理解し、効果的に活かす。 ・自分の考えやメッセージを他者に届けることのできるアイデアを探究する。 ・社会に向けた芸術の在り方を自分なりに考え、作品を介し提示する。 ・社会の問題を自分なりの視点でとらえ、他者へ問題提起、または解決法を提案をする。 <p>・多くの人に問いかけを投げかけるアート表現の在り方や可能性を模索する。</p> |
| | <p>デザイン・砂絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニット4「音を描く―色とかたちの挑戦！―」 ・色彩構成 ・砂絵 ・抽象表現 ・構成美の要素/投影図 | <ul style="list-style-type: none"> ・色彩構成(配色・配置・投影図)について学習した内容を理解し、それらの知識を獲得したことを示す。 ・色とかたち、配置についての学習内容を効果的に活かし、目に見えないものを表現する技術の上達と発展を示す。 ・音楽を聴いたときの気持ちの変化や音から受ける印象などから発想を広げ、アイデアの探究を示す。 |

| | | | |
|------|------|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 保健体育 | 一斉 | 3時間 |

| | |
|---------------------|------------------------------|
| 教科書 新中学保健体育 (学研) | 副読本 中学体育実技 2022 (横浜市版 学研) |
|---------------------|------------------------------|

| |
|--|
| <p>目標・ねらい (IBの目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健体育の概念を探るために探求心を駆使する 多様な状況に効果的に関わる →場面や状況の変化にどう対応するべきか? 運動の価値を理解する →何のために運動するのか? 健康的なライフスタイルを達成し、維持する →健康的なライフスタイルとはどのようなものか? 効果的に連携し、コミュニケーションを図る →どのようなコミュニケーションをとるか? 肯定的な人間関係を築き、社会的な責任感を実際に示す →前向きに仲間と関わるために自分の果たす役割は何か? 自身の学習経験を振り返る →自分のできること、苦手なことは何か? どうすればできるようになるか? |
|--|

| |
|--|
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体操服をきちんと着用すること。 ○怪我の防止のため、準備運動を徹底すること。 ○ユニットごとにペーパーテストを行う ○ワークシートを期限内に提出すること <p>見学の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体調を考えながら可能な範囲で参加をし、できるだけ見学はしないこと。 ・見学届は事前に提出すること。 |
|--|

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|------------------|
| 知識・技能 | 50 | ペーパーテスト・実技テスト |
| 思考・判断・表現 | 25 | 授業内での取り組み、ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 25 | 授業内での状況判断、ワークシート |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|------------------------------------|--|
| 前期 | 体育祭関係 ラジオ体操第2 行進 競技の説明・練習 | ・集団の中での役割を自覚し、行動できるようになる。 |
| | 【ユニット1】 バレーボール | ・状況に応じたプレーを選択するために、以下の技術を習得する。 ・オーバーパス ・アンダーパス ・サーブ |
| | 水泳 | ・プール、海、川での事故とその防止法について理解する。 |
| | 体づくり運動 | ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。 |
| 後期 | 【ユニット2】 ダンス | ・リズムに合わせて楽しく体を動かすことができる。 ・曲にあったテーマを決めて動きを創作する。(探究) |
| | 【ユニット3】 バスケットボール | ・基本的なパスやドリブル、シュートを習得し、簡単なゲームが展開できる。 ・ボールの保持と空き(スペース・人)を作るための工夫や変化を探究する。 |
| | 【ユニット4】 空手 | ・基本の型を習得する。 ・グループで型の見せ方を探究する。 |
| | 【ユニット5】 マット運動 | ・前転、後転、開脚前転、開脚後転、頭倒立、倒立、倒立ブリッジ(発展:側転、倒立前転) ・目標とする技のポイントを理解し、習得するまでの段階を踏んだ練習方法を探究する。 |
| | 【ユニット6】 保健 | ・中学生の心の発達と健康を理解する。 |
| | | |

| | | | |
|------|-------------|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 技術・家庭(家庭分野) | 一斉 | 1時間 |

| | |
|---|-----------|
| 教科書 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して(東京書籍) | 副読本 なし |
| 目標・ねらい 生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を身につける。 | |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) 1 プリント、課題などは必ず提出すること。 2 調理実習では、班で作業することも考え、なるべく欠席のないよう体調管理に注意すること。 3 長期休業中には、家庭での実践を含めたレポート等の課題がある。 | |

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|---------------|----|------------------|
| 知識・技能 | 40 | 確認テスト、実技テスト |
| 思考・判断・表現 | 40 | ワークシート、課題レポートの内容 |
| 主体的に学習に取り組む姿勢 | 20 | 授業、課題への取り組み状況 |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|---|
| 前期 | 私たちの衣生活(Unit1) 衣服の選択と手入れ | 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。 既製服を選ぶために必要なサイズや取扱い絵表示の見方を理解し、衣服の適切な選択ができる。 |
| | 生活を豊かにするために① | 生活でに必要な衣服の補修にかかわる手縫いの基礎技法を身につける。 |
| 後期 | 生活を豊かにするために② | 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫する。 |
| | | 布を用いた物づくりの実践を振り返り、それぞれの作品を観賞する。自分だけの物づくりの意義を考える。 |
| | 私たちの消費生活と環境 私たちの消費生活 責任ある消費者になるために | 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解する。 自分や家族の消費行動が環境に与える影響を理解する。 |

| | | | |
|------|-------------|------|-------|
| 履修学年 | 科目 | 授業形態 | 単位数 |
| 中学1年 | 技術・家庭(技術分野) | 一斉 | 1.5単位 |

| | |
|----------------------------|-------------------------|
| 教科書 新しい技術・家庭 技術分野(東京書籍) | 副教材 Google Classroom |
|----------------------------|-------------------------|

目標・ねらい
材料と加工の技術の学習を通して、身近な材料の特性や加工方法などの基礎的な知識・技能を習得するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

注意事項(学習方法・長期休業の課題など)

- ・課題は、授業時に終わらせることが前提であるが、終わらない場合は放課後補習という形態をとることがある。
- ・グループワークや実習を多く取り入れた授業形態となるため、積極的な活動が求められる。
- ・授業を欠席した場合は、登校日に授業内容の確認に来ること。
- ・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは平常点の大幅な減点対象となるため注意すること。

評価について

| 項目 | 割合(%) | 項目内容 |
|---------------|-------|------------------|
| 知識・技能 | 40 | 製作品 |
| 思考・判断・表現 | 40 | ワークシート、課題レポートの内容 |
| 主体的に学習に取り組む姿勢 | 20 | 授業、課題への取り組み状況 |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|--|
| 前期 | 技術分野のガイダンス 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み | 生活や社会を支えているさまざまな技術に関心を持つとともに、3学年間の技術分野の学習の見通しを立てることができる。 身近な材料の性質について調べる活動を通して、材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解し、技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。 |
| | 情報技術 情報モラル「知的財産」 作品「プロフィールアイコン」の作成 (※週1コマ前期に実施) | 情報の技術によって世界や社会がどのように変化したかを考えることができる。 情報の特性を理解して、情報を安全に利用できる。 情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身につける。 |
| | 材料と加工の技術による問題解決 | キャビネット図・等角図・正投影図の特徴を知り、製作に必要な図をかくことができる。 |
| 後期 | 材料と加工の技術による問題解決 「材料の性質が学べるすごろく作り」 | 問題解決のための課題を設定し、製作工程に沿って木製品製作をすることで、木材の特性や加工方法を理解し、基礎的な技能を習得することができる。 また、木製品製作を通して、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる。 |

| | | | |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学1年 | 宗教 | 一斉 | 1時間 |

| | |
|-----------------------------|-----------|
| 教科書 聖書 新共同訳続編つき (日本聖書協会) | 副読本 なし |
|-----------------------------|-----------|

| |
|---|
| 目標・ねらい ①学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身に付ける。 ②キリスト教の歴史を理解する。 ③聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。 ④生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。 |
|---|

| |
|---|
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など) ・聖書のみことばと、現代社会の諸問題を関連付けながら、学ぶように導く ・修養会などの宗教行事に関しての事前の準備と、事後の振り返りを行う。 ・修養会ノートの提出や、課題に対するレポートを定期的に課す。 ・夏休みには読書感想を書く。(宗教書などの指定は適宜行う) |
|---|

評価について

| 観点 | 割合 | 授業時における項目 |
|-----------------|----|------------------|
| 宗教への興味・関心 | 20 | 提出物・修養会ノート |
| キリスト教についての知識・理解 | 60 | 課題 |
| キリスト教的価値観を表現する力 | 20 | 課題・レポート(読書感想文など) |
| | | |

年間授業計画表

| | 単元 | 目標 |
|----|--|--|
| 前期 | ・キリスト教について(祈り・聖書) ・聖母月や聖週間・復活祭などの教会の暦と行事を知る ・旧約聖書について | ・キリスト教の祈りや聖書全体の構成、読み方を学ぶ ・季節ごとの宗教的な行事や典礼を示し、理解する。 ・旧約聖書の成り立ち、言語、主な内容を理解する。 |
| | ・旧約聖書の物語を学ぶ (1)創世記における万物の創造 (2)アダムとイヴの物語 (3)カインとアベル (4)ノアの箱舟 (5)バベルの塔 (6)アブラハムの一族 (7)イサクからヤコブまで (8)ヨセフ物語 | ・神の愛と、人間の自由について考える。 ・アダムとイブ＝原罪＝自由＝愛。 ・妬み、けんか ・天からの罰 ・神に近づこうとする人間 ・ユダヤ・キリスト・イスラム教の祖とされるアブラハム一族について、その背景や信仰心について理解する。 ・神の計画・使命を理解する。 |
| 後期 | ・クリスマスなど教会の暦と行事を知る ・学園と創立修道会であるアトメントのフランシスコ会について知る ・修養会について | ・季節ごとの宗教的な行事や典礼を示し、理解する。 ・アトメント会と勝野初代学園長神父による学園創立の背景を理解する。 ・指導講師の紹介・テーマの確認・みことばの祭儀や修養会の企画運営。 |
| | ・旧約聖書の物語を学ぶ (9)モーセの生涯(出エジプト記～申命記) (10)ヨシュア～ | ・神の計画 ・「救い歴史」を一つの流れの中で理解させる。 |